



# 逆境は、ラッキーだ。

あれから3年かぁ。  
入社式を終えた新入社員らを眺めながら、  
かつての自分を思い返していた。

「カスタマーサポート室？」

希望に落ち入社したのもつかの間、三週間の研修後に発表された配属先に、愕然とした。仕立てのいいスーツを強爽と着て、外回りに出かける。そんな営業マンになりたかった。でなければ、マーケティング部か。それがまさかの、カスタマーサポート室。

「ここは定時に終われるぞ」

と言われても、同期に遅れそうに焦った。

「それから、ご覧の通り」

スーツじゃなくていいからな」

父が自営業だった反動だろうか、そのスーツが着たいのだ。まさに失意の新人だった。

「いいか早川、こういうクレームのときは

まず製品の使用環境を確認して……」

先輩の教えも上の空……。このままこの会社においていいのか、今ならまだ……。悶々とした気持ちを引きずっていた。そんなある日、

「お前、辞めようかと思ってるんだろ」

飲みに誘ってくれた上司は、ビールを注ぎながら言った。見透かされていた。

「気持ちにはわかる。でも、会社である以上

ままたまならんこともある。それに目標まで最短距離がいいとは限らん。

回り道で得るものだってある」

目の前でビールの泡がしぼんでいく。

「その点、サボ室は宝の山だぞ。」

何せ、顧客の不満も要望も、本音が

バンバン聞けるからな。それはお前が

今後どこに転属になっても、仮に転職した

としても、仕事のヒントになるはずだ。

知ってたか、この会社、実はサボ室経験の

役員が多いって……」

それからだった。曇っていた視界に日差しを感じ、仕事に本気で向き合え出したのは、

「ああ、こういうクレームで

大事なのはさ、まず製品の使用状況を……」

今では先輩風を吹かせながら、この部署

でしかできない経験を楽しんでいる。

人生まだまだ始まったばかりだ。

「ところで早川さんって、

何で一人だけスーツなんですか？」

生き方を、包む。

# D'URBAN

www.durban.jp